



継手&チューブ/共通注意事項①

ご使用前に必ずお読みください。

「安全にお使いいただくために」 および各シリーズの個別注意事項も併せてご確認ください。

選定

警告

仕様をご確認ください。

本カタログに掲載の継手・チューブは、圧縮空気用として設計されています。圧縮空気以外の流体を使用する場合は、予め当社にご相談ください。

なお、仕様の範囲外の圧力や温度では、破損や作動不良の原因となりますので使用しないでください。

チューブは、最小曲げ半径以上でご利用ください。最小曲げ半径未満で使用すると、チューブの折れやつぶれの原因となります。

接続ねじ部とチューブ接続部が、摺動もしくは回転する場所には使用しないでください。

継手やチューブの破損の原因となります。

インスタント継手には、当社製のチューブをご使用ください。

当社製以外のチューブを使用する場合は、チューブ外径精度が当社製と同等以上であることを確認の上でご利用ください。

外径精度を満足していないとチューブが接続できなかつたり、接続後の空気漏れやチューブ抜けの原因となります。

MINI管継手は、当社製チューブ以外では使用できません。

クリーンルーム内でご利用の場合は、予め当社にご相談ください。

取付け

警告

空気圧機器が適正に作動することを確認するまで、起動しないでください。

取付け後、圧縮空気や電源を接続して適正な機能検査および漏れ検査を行い、正しく取付けられ、安全かつ確実に作動することを確認してから、システムを起動してください。

保守点検に必要なスペースを確保してください。

注意

取付け前に形式、サイズなどを確認してください。また、製品に傷、打痕、亀裂がないか、併せてご確認ください。

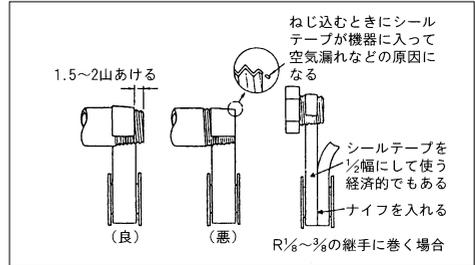
配管する前に、継手・チューブ内を十分フラッシングして切粉や切削油、ゴミ等を除去してください。

取付け

注意

シールテープの巻き方

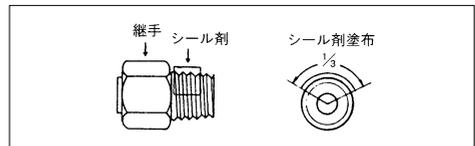
ねじ部にシールテープを巻く場合は、ねじ部を1.5~2山残して巻いてください。



液状シール剤の塗り方

ねじ部に液状シール剤を塗る場合は、ねじ部の外周約1/3に適量塗布して、ねじ込んでください。

ねじ部に垂鉛クロメート処理をしたものは、硬化しにくく時間がかかりますのでご注意ください。



継手のねじ込み

継手をねじ込む際は、切粉やシール剤が内部に混入しないようにしてください。

また、締付けトルク範囲内で適正に締付けてください。

なお、MINI管継手（M3シリーズ）のねじ込みには、専用ドライバが必要です。（本文参照）

ポートサイズ	締付けトルク (N・m)
M3	0.3~ 0.5
M5	1.5~ 2.0
R、Rc1/8	7.0~ 9.0
R、Rc1/4	12 ~14
R、Rc3/8	22 ~24
R、Rc1/2	28 ~30
R、Rc3/4	28 ~30
R、Rc1	36 ~38
R、Rc1 1/4	40 ~42
R、Rc1 1/2	48 ~50

VA01
24

VA05
24

VA01
23

VA01
33/34

MPV3

MPV4

真空
バンド

固定式
金具

MPS
MVS

コム
（注）

真空
ポンプ

イライ
ンフィル
タ

7/8
エドロー

排気
絞り弁

外径
1/2インチ

シヤトル
バルブ

チェック
バルブ

パーマ
ストップ

インス
tant継手

チューブ

エア
マフラー

ローリ
ンジョイント

Jシリーズ

P3N

ミニチュア

HP10

ドライヤ

エアレガ



継手&チューブ/共通注意事項②

ご使用前に必ずお読みください。

「安全にお使いいただくために」および各シリーズの個別注意事項も併せてご確認ください。

取付け

⚠ 注意

- 継手の位置合せをする場合、ねじ込み後に戻さないでください。
一度ねじ込んだ後に戻すと空気漏れの原因となります。
- チューブを接続する際、圧力によるチューブ長さの変化などを考慮し余裕を持たせてください。
- 継手とチューブに捻れ、よじれ、引っ張り、モーメント加重などが加わらないようにしてください。
継手破損やチューブ抜け等の原因となります。
圧縮空気が流入している状態でチューブが抜けると、急激に振り回され(鞭打ち現象)、これが当たると人体に損傷を与えます。

空気の状態

⚠ 警告

- 清浄な空気をご使用ください。
圧縮空気中に腐食性ガス、化学薬品や塩分等が含まれていると破損や作動不良の原因となりますので、使用しないでください。

使用環境

⚠ 危険

- 爆発性雰囲気のある場所では使用しないでください。

⚠ 警告

- 腐食性ガス、化学薬品、海水、水、水蒸気の雰囲気または付着する場所では使用しないでください。
- 直射日光が当たる場合、保護カバー等で避けてください。
- 周囲に熱源がある場合、輻射熱を遮断してください。
- 溶接時のスパッタが飛散する場所では、保護カバー等の防護対策を施してください。
スパッタによってプラスチック部品やチューブなどが焼損し、火災を引き起こすことがあります。
- 静電気の帯電が問題となる場所では使用しないでください。
制御システムの誤作動や故障の原因となります。

保守点検

⚠ 警告

- 保守前点検
負荷の落下防止処置などがなされていることを確認してから、供給する空気と設備の電源を遮断し、システム内の残圧を排出してから行ってください。
- 保守後点検
再起動する場合は、暴走防止処置がなされていることを確認してから、空気圧システムに圧縮空気や電源を接続して適正な機能検査および漏れ検査を行い、正しく取付けられ、安全かつ確実に作動することを確認してから、システムを起動してください。

⚠ 注意

- 定期点検に際し、継手・チューブについては以下のことを確認し、必要に応じて交換してください。
 - ・傷、打痕、摩耗、腐食
 - ・空気漏れ
 - ・チューブのよじれ、つぶれ、捻れ
 - ・チューブの硬化、劣化
- 交換したチューブは、再使用しないでください。
- ドレン抜き
空気の状態を維持するために、エアフィルタのドレン抜きは定期的に行ってください。



継手&チューブ/共通注意事項③

ご使用前に必ずお読みください。

「安全にお使いいただくために」 および各シリーズの個別注意事項も併せてご確認ください。

インスタント継手の使用上のご注意

⚠ 注意

- チューブは、外周に傷のないものを直角に切断してご使用ください。
チューブの切断には、専用のチューブカッタTC-16をご使用ください。
ペンチやニッパ、ハサミ等は使用しないでください。これらを使用するとチューブをつぶしてしまい、空気漏れなどを招きます。
- チューブを装着する場合、継手のチューブエンドまで確実に押し込んでください。
チューブエンドまで押し込んだらチューブを軽く引っ張り、抜けないことを確認してください。チューブエンドまで確実に装着されていないと、空気漏れやチューブ抜けの原因となります。
- チューブを抜く場合、リリースリングを十分に押し込むことでロックリングのチューブへの食い込みを解除しながら、チューブを抜き出してください。
リリースリングの押さえが不十分ですと、ロックリングがさらにチューブへ食い込んで抜けにくくなります。
- 一度抜いたチューブを再び装着する場合、ロックリングがチューブに食い込んだ箇所を切断してからご使用ください。
食い込んだ箇所をそのまま使用すると、空気漏れの原因となったり、チューブが抜けにくくなります。

シール剤付継手の使用上のご注意

⚠ 注意

- ねじ込み過ぎるとシール剤の外部へのはみだし量が多くなります。
はみ出したシール剤は除去してください。
- ねじ込みが浅いと、シール不良やねじの緩みの原因となります。
- 再使用について
 - ・ 通常2~3回の再使用が可能です。
 - ・ 取外した継手に付着しているシール剤のカスは、エアブロー等で除去してください。
周辺の機器に入り込みますと、空気漏れや作動不良の原因となります。
 - ・ シール剤の効果がなくなった場合には、シール剤のカスを除去した上で、シールテープを巻いて使用してください。シールテープ以外は使用しないでください。

VA01 24
VA05 24
VA01 23
VA01 33/34
MPV3
MPV4
真空 パッド
固定式 金具
MPS MVS
コンム （注）
真空 ポンプ
インライン フィルタ
スロート コントローラ
排気 絞り弁
外気 圧検出
シャトル バルブ
チェック バルブ
パーマ ストップ
インスタ ント継手
チューブ
エア マフラー
ローリ ジョイント
ジョーズ
P3N
ミニチュア
HP10
ドライヤ
コプレタ